

高齢者のコミュニケーションと生きがいに関する研究

—SNS利用に着目して—

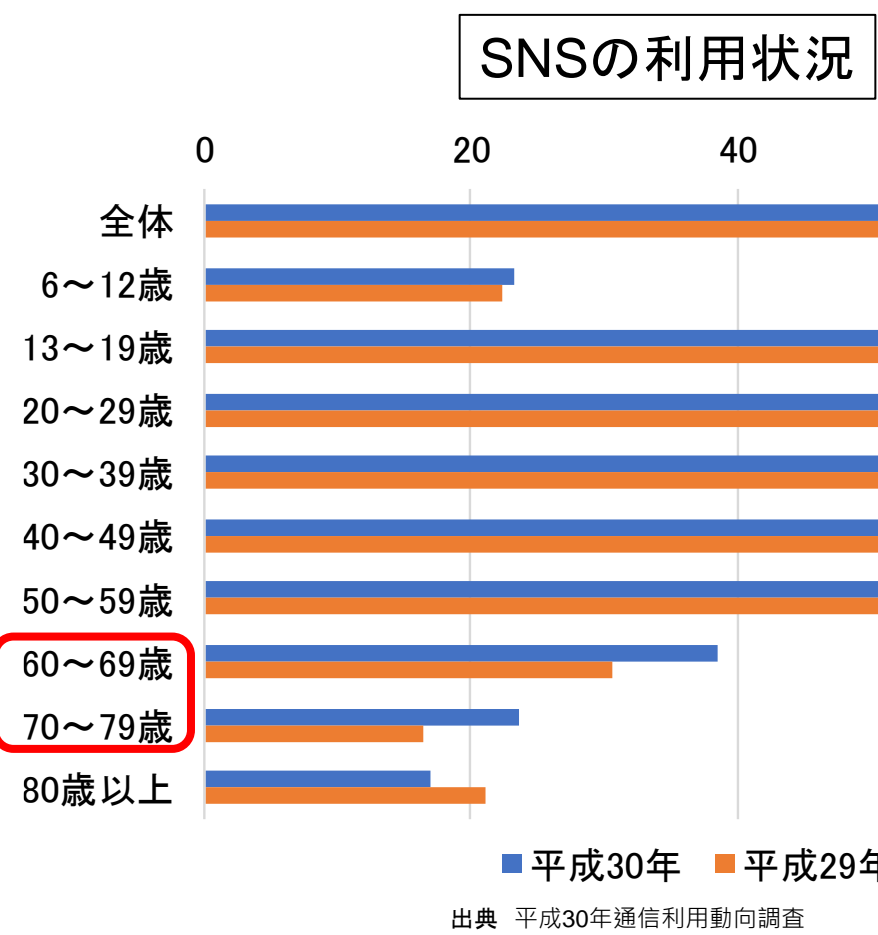
交通まちづくり学研究室2019年度卒業研究 山下壮太

研究の背景

- 急速な高齢化に加え、老後の生きがいに対する不安が顕在化
- 会話の頻度や近所づきあいが少なく、困ったときに頼れる人がいない人が生きがいを感じていない

他者とのつながりやコミュニケーションの質・量の差が高齢者の生きがいに関連している

一方、近年ではSNSが普及



高齢者において利用者が増加

- SNSの利点
- 新しいつながりの創出
 - 既存のつながりの強化

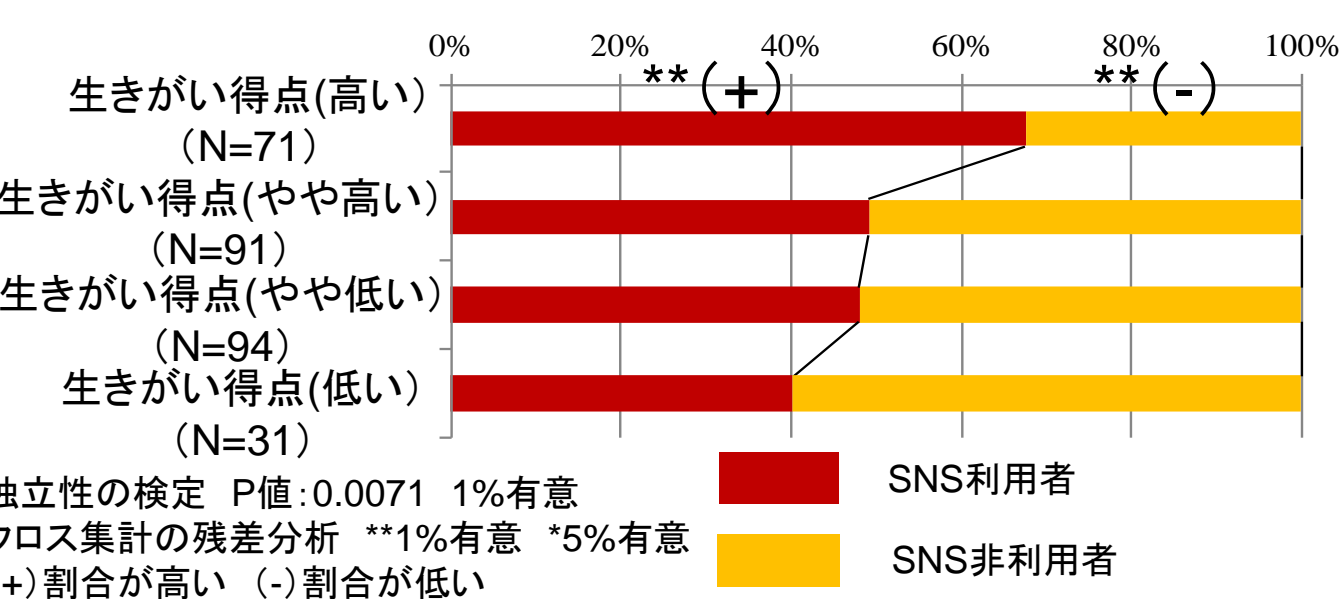
SNSを利用することで、高齢者の生活を生きがいのあるものにできるのではないかと

研究の目的

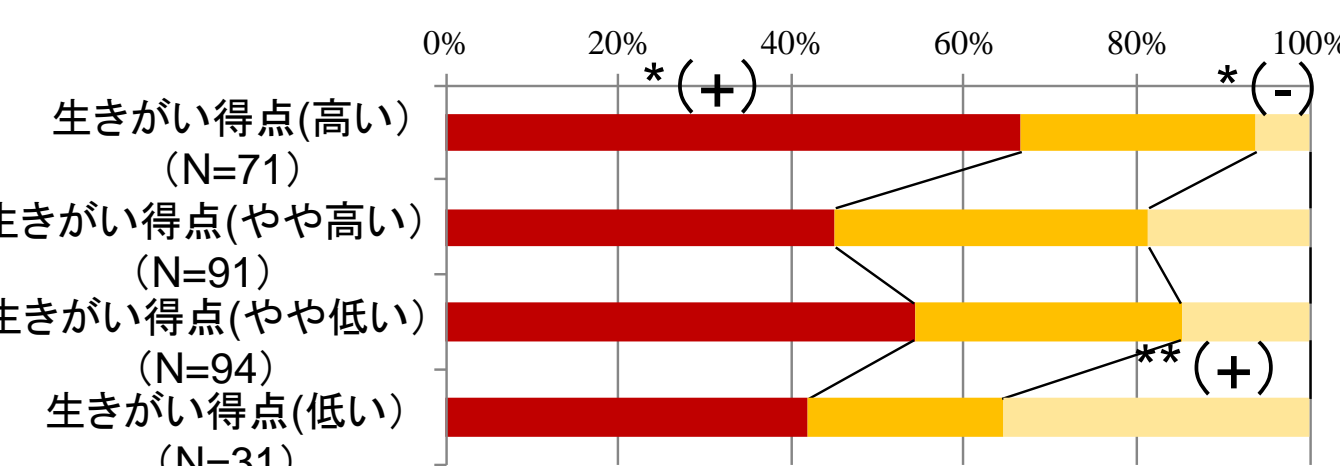
コミュニケーションの中でもSNSに着目し、高齢者の生きがいとの関連性を把握する

分析結果

SNSと生きがい得点との関連性

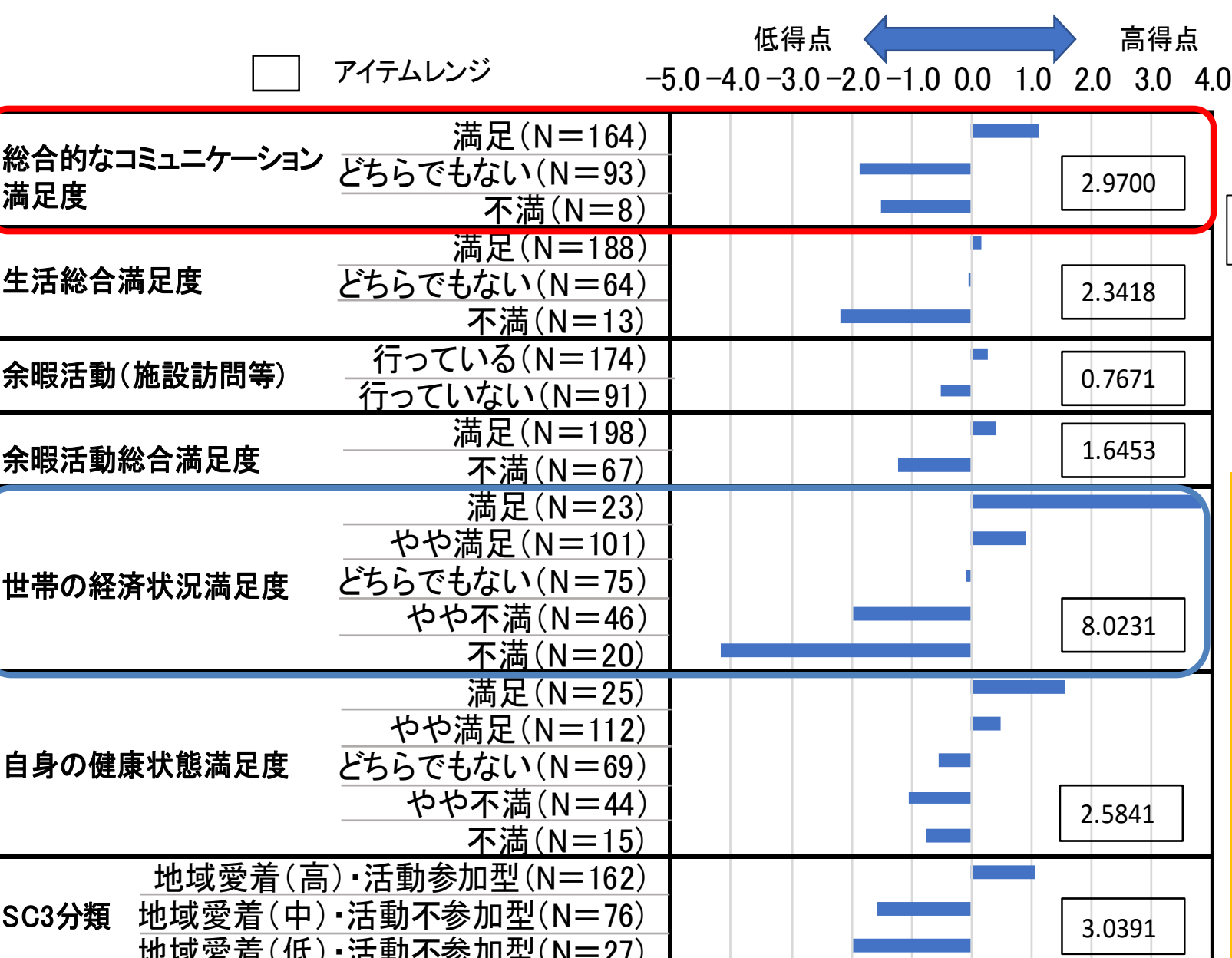


生きがい得点（高い）グループはSNS利用者の割合が高い



生きがい得点（高い）グループはSNS利用に積極的で、SNS上で相手のことが考慮できている

SNS非利用者の生きがいの構成要素の把握



数量化Ⅰ類分析
目的変数 生きがい得点

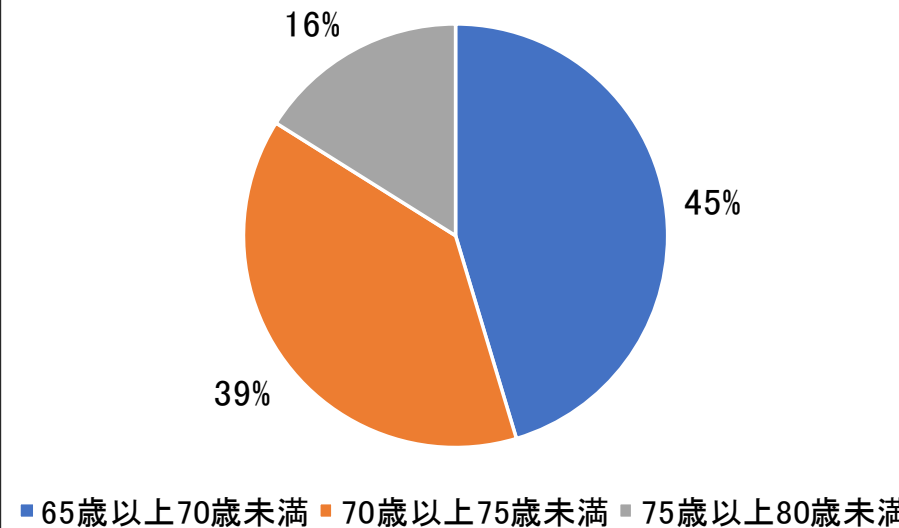
- ・ 重相関係数 0.7287
- ・ 重相関係数の2乗 0.5310
- ・ 定数項 27.3623

- 世帯の経済状況満足度が最もレンジが大きい
- 総合的なコミュニケーション満足度が生きがいを構成する重要な要素である

調査概要

- 全国を対象としたWebアンケートを実施
- SNS利用者とSNS非利用者、男性と女性をそれぞれ半数ずつサンプリング
- Twitter、Facebook、Instagramを調査対象SNSとする
- コミュニケーションを対面コミュニケーションとテキストコミュニケーション（メール、LINE等）に分類

アンケート回答者の年齢構成比



調査名		高齢者のSNS利用とコミュニケーションに関する調査			
調査方法	Webアンケート				
調査時期	2020年1月				
調査対象地域	全国				
調査対象者	SNSを週1日以上利用している男性	SNSを週1日以上利用している女性	SNSを週1日未満利用、もしくは利用していない男性	SNSを週1日未満利用、もしくは利用していない女性	
総数	132人	132人	133人	132人	529人
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人属性 ● SNS利用状況及びSNSの投稿・閲覧に関して ● 対面コミュニケーションの実施状況及び満足度 ● テキストコミュニケーションの実施状況及び満足度 ● 生きがい意識尺度(Ikigai-9)を用いた生きがいの測定 ● ソーシャルキャピタルを用いた地域とのかわり具合の測定 ● 余暇活動実施状況及び満足度 ● 移動状況 ● 生活満足度 				

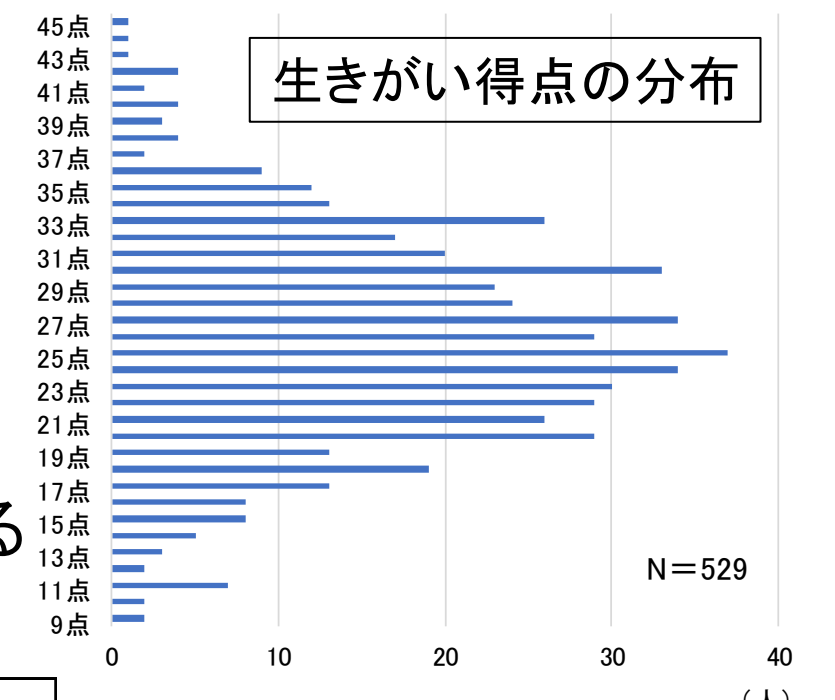
使用尺度

生きがい意識尺度(Ikigai-9)を使用

- 項目数が少なく、回答者の心理的負担が少ない
- 内容的妥当性・併存的妥当性・因子的妥当性の3点から妥当性を検証
- 都市計画分野や作業療法分野で使用されている

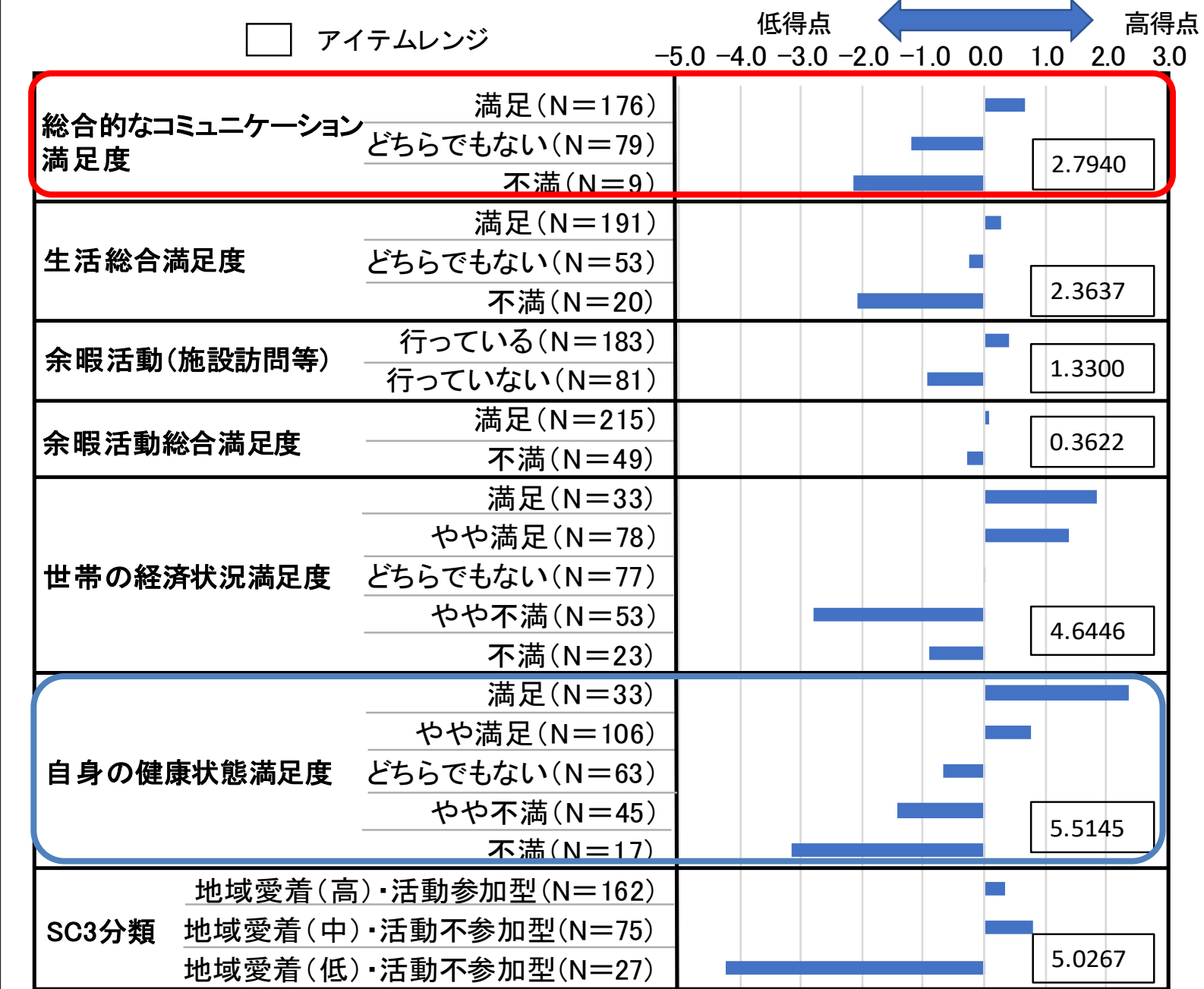
生きがい得点に関するクラスター分析の結果

クラスター名	N	下位尺度Ⅰ(生活・人生に対する楽天的・肯定的感情)	下位尺度Ⅱ(未来に対する積極的・肯定的姿勢)	下位尺度Ⅲ(自己存在の意味認識)
生きがい得点(高い)	71	12.859	12.817	12.789
生きがい得点(やや高い)	185	11.432	10.032	10.000
生きがい得点(やや低い)	196	8.551	8.883	8.051
生きがい得点(低い)	77	6.792	5.662	6.039



4グループに分類し各項目とクロス集計

SNS利用者の生きがいの構成要素の把握

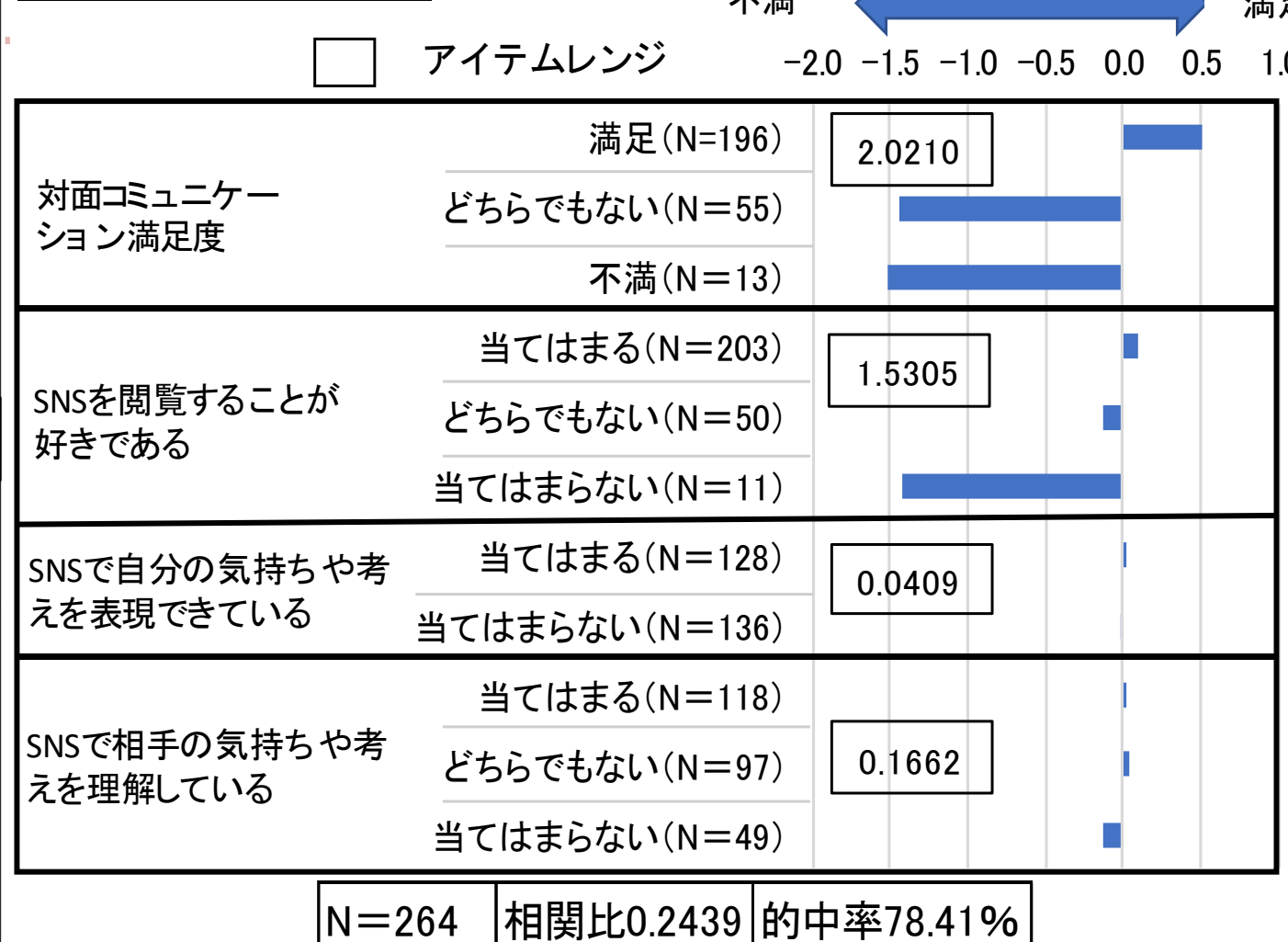


数量化Ⅰ類分析
目的変数 生きがい得点

- ・ 重相関係数 0.6391
- ・ 重相関係数の2乗 0.4084
- ・ 定数項 29.2424

- 自身の健康状態満足度が最もレンジが大きい
- 総合的なコミュニケーション満足度が生きがいを構成する重要な要素である

SNS利用者の総合的なコミュニケーション満足度の構成要素の把握



生きがいの構成要素として重要だと明らかになった総合的なコミュニケーション満足度に関して、構成要素を把握(対面、テキスト、SNSの要素から)

数量化Ⅱ類分析
目的変数 総合的なコミュニケーション満足度

- 対面は1つの要素が説明変数となった
- テキストは説明変数にならなかった
- SNSは3つの要素が説明変数となったがレンジが小さい

まとめ

- 高齢者の生きがいを考慮する上で、コミュニケーションの充実が重要
- SNSの利用は、対面コミュニケーションの補完的な役割を果たし、生きがいを維持・向上させる可能性がある